

事務事業名	例規データベース管理事業		所属部局	総務部	単位番号	3011
			所属課室	総務課	課長名	小池 正之
	☐ 実施計画事業		所属担当	文書法制担当	担当者名	石川 珠美
基本政策	基本計画	I 情報と連携の都市づくり	予算科目	会計 名称 款 項 目 細目 細々目	01 一般 0 2 0 1 0 2 0 2 0 0 4	
政策	計画	01 行財政改革の推進	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金		
施策	体系	02 行政改革の推進				
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 年度 ☐ 期間限定複数年度 (年度) 年度			法令根拠		
事務事業の概要	事業の内容…期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			事業費の主な内訳 (22年度)		
	庁内のパソコン端末機(グループウェア)で職員が、例規集を閲覧し例規執務を効率よく行うことができる事業。			項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)		
	・例規執務サポート及びデータベースの使用等の契約、議会定例会に併せての例規データの追録作業			その他委託料 2,205		
	・例規集データベースシステム使用料、更新データ作成委託料、現行法令Webシステム使用料、例規データの加除代			使用料 1,197		
				計 3,402		

1 現状把握 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	使用契約の締結、例規改正内容の送付・確認
23年度活動予定	使用契約の締結、例規改正内容の送付・確認
② 対象 (この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	
例規、職員	
③ 意図 (この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
制定、改廃した例規をデータとして職員端末機において管理することにより、安定してシステムを利用できる	
④ 上位目的 (どのような結果に結び付けるのか)	
適切な事務の執行	

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
端末使用台数	台
サーバ数	台
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
職員数	人
⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
満足と回答した職員数	%
⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
満足と回答した職員数	%

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	4,378	3,402	4,242	6,402	3,402	3,402	
		事業費計 (A)	千円	4,378	3,402	4,242	6,402	3,402	3,402	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時間	120	120	120	120	120	120	
		人件費計 (B)	千円	535	535	475	475	475	475	0
		(A)+(B)	千円	4,913	3,937	4,717	6,877	3,877	3,877	0
活動指標	アイウ	台	695.0	685.0	685.0	685.0	685.0	685.0		
	アイウ	台	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
対象指標	アイウ	人	695.0	685.0	685.0	685.0	685.0	685.0		
	アイウ	人								
成果指標	アイウ	%								
	アイウ	%								
上位成果指標	アイウ	%								
	アイウ	%								

(3) この事務事業を取り巻く状況 (対象者・社会状況等) の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	合併当初から開始。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	地方分権などによる法律等の改正に伴う例規の制定、改正が増加している。
③ 事務事業に対して関係者 (市民、事業対象者、議会等) からどんな意見・要望が寄せられているか?	なし

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☒ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☐ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	システム変更の検討を行った。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	システム変更を行い機能をアップ。

事務事業名	例規データベース管理事業	所属部	総務部	所属課	総務課
-------	--------------	-----	-----	-----	-----

2 評価 (Check1) 担当者による事後評価 (複数年年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない (見直し余地がある) ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由 ↓] 市の事務事業の基礎となっている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由 ↓] 市としての基本的役割である。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由 ↓] 例規事務を行うので適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由 ↓] 議会ごと (終了後2ヶ月以内) に、例規制定・改廃のデータ更新を行う。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☒ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入 ↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 統合・連携ができない ⇒ [理由 ↓] 例規集の追録のみは、同じだが、例規執務等は例規データベース事業でしか行うことができないため。 ☐ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容 ↓] 条例、要綱等の改廃等がある場合、このシステムで例規事務を行っている。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒ [理由 ↓] 条例、要綱等の改廃等がある場合、このシステムで例規事務を行っている。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費 (コスト) を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 本市の例規に携わった業者との契約である。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？ (事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 契約関係や例規改正内容の送付・確認に伴う人件費。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由 ↓] 市の事務事業の基盤となるもので公平公正である。

3 評価 (Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括 (事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	前年度新たな例規システムの操作方法等について職員の研修を実施。今年度は、職員が円滑に新システムへ移行できるよう支援を行う。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性 (Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携 (有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善 (公平性⑨の結果) ☐ 休止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上 (有効性④の結果) ☒ 現状維持 (全評価項目で適切) ☐ 必要性検討 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減 (効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
①																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果	⑩																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					